

## 2021 年度 研究所事業報告書

研究所名	人間科学研究所
------	---------

**I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること**

本欄には、研究所・センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、研究所総合計画(5 年)および 2020 年度重点プロジェクト申請調書に記載した内容に照らし、項目立てなどをおこなうだけでわかりやすく記述してください。なお、2020 年度に採択を受けた研究所重点プロジェクトの実績報告は、書式 B に記述のうえ提出してください。

**1. 重点プロジェクトの推進**

以下の 3 課題を重点プロジェクトとし、第 4 期拠点形成型 R-GIRO 研究プログラムの研究プロジェクト「高齢者の認知的コミュニケーションの支援に向けた学際的研究拠点の形成」と連携を行いつつ、研究展開を行った。下記 3 つのプロジェクトにサブ・プロジェクトを組み込んだ研究プロジェクトを実施し、多彩な活動が展開された。各プロジェクトの特筆すべき成果・取り組みは以下の通りである。

(1)「法と対人援助」：①ハラスメント発生時の社内プロトコルのインタビュー調査を複数企業の担当者に行った、場面想定法質問紙調査の実施するとともに、心理学の道徳判断研究のレビューや最新知見を収集し、研究成果を数多く発表した。②インクルーシブな社会・医療サービスの推進という観点から多面的な検討をすすめるとともに、新型コロナウイルス感染症流行という状況の中で生じる諸課題について、地域社会学会、地域経済学会等の要請に応え重点的に研究をすすめ、両学会で招聘報告を行った。③児童養護施設を退所した若者の逆境体験に関する実態調査の分析を行い、得られた知見をもとに科研費を申請、採択に至った。④家族支援の新しい展開をささえるカギとなる社会的養育の構築をめざし、フォスタリング・ソーシャルワーカーを対象とした専門職講座を実施した他、暴力で悩む男性問題のカウンセリングを行うなど、社会実装の研究を展開した。⑤司法面接で現実的に想定される課題に対する対応法、話しながら子どもへのアプローチ、司法面接の実施にかかる母語と非母語での報告の違いなどについて論文等を執筆した。

(2)「対人援助の学融的研究」：①方法論的基盤をなす質的研究法 TEA（複線径路等至性アプローチ）/TEM（複線径路等至性モデリング）に関する研究を推進した。②左右の複合立体の異同を答えるメンタルローテーション課題を設定し、それを遂行する際の視線移動を計測することで、メンタルローテーション課題時の視線移動の特徴から解決方略を検討した。③電動車いすを必要とするなど重度障害者や高齢者の移動困難者が日常的に抱える社会的課題とこれを支援する側とのコンフリクトについて諸外国と日本の比較研究を行った。④就労移行支援事業所と連携し、事業所の利用者を模擬店舗の実習生として受け入れた。特別支援学校でのコンサルテーションについては、院生が児童に直接かかわる中で教員支援を実施した。⑤実行機能からみた加齢変化について、報告した。特に、準備的な認知処理である proactive control から、即時的な認知処理である reactive control への移行について発表した。⑥胎児期から幼児期までの子どもとその養育者に対する経時的研究「いばらきコホート」を遂行した。

(3)「対人援助研究のフロンティア」：①量刑分布グラフの提示方法の違いが量刑判断に与える影響についての予備的な実験を行った。②自閉スペクトラム症児を対象に、遊びを中心とする療育プログラム開発（通称あひるくらぶ）の活動を毎月 1 回実施し、併行して親の会活動も実施した。③CBS の実験的研究として、IRAP を用いた実験的研究を実施し、その成果を国際学会で発表した。④社会的相互作用の認知に関わる共感性の脳機構を脳機能イメージングによって解明し、ハイインパクトジャーナルに発表した。⑤忘却に関する研究として、移動するドットの個数推定を行う課題を用いて実験を行い作動記憶の更新と忘却の関係について検討を行った。⑥記憶の想起に効果的なデータの検討では、短期的な記憶と長期的な記憶に分類し、それぞれ研究を行った。

**2. 学術誌の刊行と研究所年次総会での研究成果の公開**

- ・査読論文を中心とする『立命館人間科学研究』を 1 号刊行した。
- ・研究所年次総会では、ライフコースを通じたシームレスな支援を構想するうえで、大きな障壁となっている「18 歳の崖」に注目し、ヤングケアラー、ひきこもり、社会的養護、若者と社会的排除という、近年社会的に注目度の高い問題を取り上げ、多角的な観点から、支援の課題や可能性を探るシンポジウムを開催した。

**3. 若手研究者の育成**

- ・立命館大学 NEXT フェローシップ・プログラムに採択され、法心理学に関する重点プロジェクト研究のユニットに深くかかわる大学院生 1 名をフェローシップ生として、育成を継続して行っていくことが決定した。
- ・研究所年次総会では若手研究者にコロナ禍のなか、オンラインによるリアルタイムでのポスター発表の場を設けた。専門研究員・研究員のみならず、大学院生などもプロジェクトに積極的にポスター発表を行った。
- ・若手研究者を所内重点・萌芽プロジェクトメンバーとし、創思館に現有するプロジェクト室を提供するなど、研究資源の配分を積極的に行うとともに研究上の連携を奨励した。

**4. その他研究の展開**

- ・人間科学研究所の全所的な取り組みとして、JST-RISTEX「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム（社会的孤立・孤独の予防と多様な社会的ネットワークの構築）」への申請を行った。所内の対人援助に関連するプロジェクトを取り纏め「18 歳の崖」を全体テーマとしての、研究所を代表する大きな申請プロジェクトとなった。
- ・社会的要請に直接対応する事業を以下のように展開した。①日本財団助成金を受け、高度専門職養成に向けて実施している「フォスタリング・ソーシャルワーク専門職講座」を昨年度に続き開講し、20 名が修了した（2023 年度まで継続予定）。②京都府委託事業として、男性問題にかかわる専門相談員による DV 加害者更生カウンセリングを実施した。

## II. 拠点構成員の一覧（公開項目）※ページ数の制限は無し

本欄には、2022年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長・センター長	矢藤 優子	総合心理学部	教授
運営委員	竹内 謙彰	産業社会学部	教授
	松田 亮三	産業社会学部	教授
	中村 正	産業社会学部	教授
	岡田 まり	産業社会学部	教授
	斎藤 真緒	産業社会学部	教授
	柏木 智子	産業社会学部	教授
	石田 賀奈子	産業社会学部	准教授
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授
	谷 晋二	総合心理学部	教授
	土田 宣明	総合心理学部	教授
	安田 裕子	総合心理学部	教授
	林 勇吾	総合心理学部	教授
	若林 宏輔	総合心理学部	准教授
	森久 智江	法学部	教授
	稲葉 光行	政策科学部	教授
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授
	増田 梨花	人間科学研究科	教授
村本 邦子	人間科学研究科	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	仲 真紀子	OIC 総合研究機構	特別招聘研究教員 (教授)
	上宮 愛	総合心理学部	特任助教
	松本 克美	法務研究科	教授
	徳永 祥子	衣笠総合研究機構	研究教員(准教授)
	岡本 尚子	産業社会学部	准教授
	中鹿 直樹	総合心理学部	准教授
	三田村 仰	総合心理学部	准教授
	大谷 いづみ	産業社会学部	教授
	川端 美季	衣笠総合研究機構	特別招聘研究教員 (准教授)
	北出 慶子	文学部	教授
	斎藤 進也	映像学部	准教授
	山浦 一保	スポーツ健康科学部	教授
	堀江 未来	国際教育推進機構	教授
	早川 岳人	衣笠総合研究機構	研究教員(教授)
	山口 洋典	共通教育推進機構	教授

		北川 智利	BKC 社系研究機構	招聘研究教員（教授）	
		高橋 康介	総合心理学部	教授	
		永井 聖剛	総合心理学部	教授	
		和田 有史	食マネジメント学部	教授	
		岡本 直子	総合心理学部	教授	
		星野 祐司	総合心理学部	教授	
		木村 朝子	情報理工学部	教授	
		泉 朋子	情報理工学部	准教授	
		森岡 正芳	総合心理学部	教授	
		津止 正敏	産業社会学部	特任教授	
		山岸 典子	グローバル教養学部	教授	
		姫野 有紀子	生命科学部	助教	
		柴田 史久	情報理工学部	教授	
		松室 美紀	情報理工学部	助教	
		西原 陽子	情報理工学部	教授	
		廣井 亮一	総合心理学部	教授	
		野田 正人	人間科学研究科	特任教授	
		飯田 豊	産業社会学部	准教授	
		荒木 寿友	教職研究科	教授	
		春日井 敏之	教職研究科	特任教授	
		宇都宮 博	総合心理学部	教授	
		松原 洋子	先端総合学術研究科	教授	
		小澤 亘	産業社会学部	特任教授	
		石倉 康次	産業社会学部	特任教授	
		山本 博樹	総合心理学部	教授	
		北岡 明佳	総合心理学部	教授	
		八木 保樹	総合心理学部	教授	
		東山 篤規	総合心理学部	特任教授	
	孫 怡	立命館アジア・日本研究機構	研究教員（助教）		
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	神崎 真実	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員	
		中田 友貴	OIC 総合研究機構	専門研究員	
		土元 哲平	OIC 総合研究機構	専門研究員	
		田村 昌彦	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員	
		大津 耕陽	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員	
	② リサーチアシスタント				
	③ 大学院生	下條 志徹	人間科学研究科	博士課程後期課程	
		武田 悠衣	人間科学研究科	博士課程後期課程	
		森井 花音	人間科学研究科	博士課程前期課程	

佐藤 あつみ	人間科学研究科	博士課程前期課程
橋爪 涼	人間科学研究科	博士課程前期課程
廣田 貴也	人間科学研究科	博士課程前期課程
リュウ・タクウ(LIU Zeyu)	人間科学研究科	博士課程前期課程
水野 亮太	人間科学研究科	博士課程前期課程
西井 開	人間科学研究科	博士課程後期課程・学振特別研究員 DC3
市川 岳仁	人間科学研究科	博士課程後期課程
村山 珪子	人間科学研究科	博士課程後期課程
天野 諭	人間科学研究科	博士課程後期課程
安發 明子	人間科学研究科	博士課程後期課程
工藤 芳幸	人間科学研究科	博士課程後期課程
張 秋陽	人間科学研究科	博士課程後期課程
衛藤 優里	人間科学研究科	博士課程前期課程
尾崎 怜子	人間科学研究科	博士課程前期課程
崎山 誠也	人間科学研究科	博士課程前期課程
高山 仁志	人間科学研究科	博士課程後期課程
辻 いづみ	人間科学研究科	博士課程後期課程
安井 美鈴	人間科学研究科	博士課程後期課程
連傑濤	人間科学研究科	博士課程後期課程
李星鎬	人間科学研究科	博士課程前期課程
木村 駿斗	人間科学研究科	博士課程前期課程
山口 祐司	人間科学研究科	博士課程前期課程
福山 未智	人間科学研究科	博士課程前期課程
堀江 喜久子	人間科学研究科	博士課程前期課程
杉本 菜月	人間科学研究科	博士課程前期課程
戸名 久美子	人間科学研究科	博士課程後期課程
安井 美鈴	人間科学研究科	博士課程後期課程
河上 実樹	人間科学研究科	博士課程後期課程
谷 千聖	人間科学研究科	博士課程後期課程
Zhang Pin	人間科学研究科	博士課程後期課程
Li Sheng	人間科学研究科	博士課程後期課程
Tao Yuanjun	人間科学研究科	博士課程後期課程
仲上 恭子	人間科学研究科	博士課程後期課程
紺田 真穂	人間科学研究科	博士課程後期課程
平松 祐佳	人間科学研究科	博士課程後期課程
寺岡 一江	人間科学研究科	博士課程後期課程
堀本 裕太	人間科学研究科	博士課程後期課程
川上 須我	人間科学研究科	博士課程前期課程
伊野 充代	人間科学研究科	博士課程前期課程
白井 あかり	人間科学研究科	博士課程前期課程
安陪 梨沙	人間科学研究科	博士課程前期課程

松本 龍太郎	人間科学研究科	博士課程前期課程
山田 真由	人間科学研究科	博士課程前期課程
武政 詩帆	人間科学研究科	博士課程前期課程
葛西 優花	人間科学研究科	博士課程前期課程
佐藤 文紀	人間科学研究科	博士課程後期課程
木村 祐子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
松本 健輔	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
高木 美歩	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
柏崎 郁子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
田中 美穂	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
川崎 雅貴	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
池田 さおり	社会学研究科	博士課程後期課程
石川 由美	社会学研究科	博士課程後期課程
北垣 智基	社会学研究科	博士課程後期課程
江頭 典江	社会学研究科	博士課程後期課程
大倉 和子	社会学研究科	博士課程前期課程
横山 達彦	社会学研究科	博士課程前期課程
WANG Yuzhu	社会学研究科	博士課程前期課程
井上 智恵	社会学研究科	博士課程後期課程
大谷 明弘	社会学研究科	博士課程後期課程
宮宇地 雄介	社会学研究科	博士課程後期課程
中嶋 麻衣	社会学研究科	博士課程後期課程
坪倉 浩美	社会学研究科	博士課程前期課程
ゴ ギョウケン	社会学研究科	博士課程前期課程
ハウ ギョウウ	社会学研究科	博士課程前期課程
松元 佑	社会学研究科	博士課程後期課程
富井 奈菜実	社会学研究科	博士課程後期課程
目黒 朋	社会学研究科	博士課程後期課程
手島 洋	社会学研究科	博士課程後期課程
西田 朗子	社会学研究科	博士課程後期課程
岡 夏輝	情報理工学研究科	博士課程前期課程
岡島 浩介	情報理工学研究科	博士課程前期課程
小林 晶	情報理工学研究科	博士課程前期課程
先山 広輝	情報理工学研究科	博士課程前期課程
笹田 明良	情報理工学研究科	博士課程前期課程
東森 拓磨	情報理工学研究科	博士課程前期課程
松井 俊祐	情報理工学研究科	博士課程前期課程
上田 椰馬	情報理工学研究科	博士課程前期課程
浦野 雅也	情報理工学研究科	博士課程前期課程
岡松 育夢	情報理工学研究科	博士課程前期課程
田付 航	情報理工学研究科	博士課程前期課程
辻 勇太	情報理工学研究科	博士課程前期課程
夏目 達也	情報理工学研究科	博士課程前期課程

		萩原 息吹	情報理工学研究科	博士課程前期課程
		荒川 亜樹	立命館大学 社会学研究科 博士課程後期課程満期退学	博士学位請求論文 審査中
		江波戸 傑	情報理工学部	4 回生
		久保田 大貴	情報理工学部	4 回生
		永留 菜花	情報理工学部	4 回生
		中村 仁一朗	情報理工学部	4 回生
		中村 哲朗	情報理工学部	4 回生
		糠塚 玲	情報理工学部	4 回生
		野崎 颯人	情報理工学部	4 回生
		林 真平	情報理工学部	4 回生
		林 佑一	情報理工学部	4 回生
		和田 洸一	情報理工学部	4 回生
		ALBERT Steven Cahyadi	情報理工学部	4 回生
		大石 充希	総合心理学部	3 回生
		富廣 吉平	総合心理学部	3 回生
	④ 日本学術振興会特別 研究員(PD・RPD)			
その他の学内者 (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		廣瀬 翔平	総合心理学部	助手
		水月 昭道	総合心理学部	訪問教授
		荒木 穂積	人間科学研究科	授業担当講師
		高倉 弘士	産業社会学部	非常勤講師
客員協力研究員		我藤 諭	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員
		元山 彩織	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員
		破田野 智己	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員
		孫 琴	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員
		由井 秀樹	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員
		鈴木 祐子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員
		石川 眞理子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員
		高橋 伸子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員
		吉田 甫	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員
		村山 満明	衣笠総合研究機構 人間科学研究 所	客員協力研究員

	知花 鷹一朗	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	黒田 恭史	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	大野 静代	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	荒木 晃子	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	松島 京	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	笹倉 香奈	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	中西 真	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	村上 慎司	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	高山 一夫	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	大原 ゆい	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	山崎 まどか	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	乾 明紀	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	尾崎 俊也	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	和食 慶江	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	棟居 徳子	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	千葉 晃央	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	對梨 成一	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	金 成恩	衣笠総合研究機構		客員協力研究員 (プロジェクト研究員)
	村本 詔司	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	川崎 拓也	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	谷口 正弘	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	深川 望	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員
	藤田 義彦	衣笠総合研究機構 研究所	人間科学研究	客員協力研究員

	金森 京子	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員
	山田 早紀	衣笠総合研究機構	客員協力研究員 (プロジェクト研究員)
	浅田 和茂	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 (特別研究フェロー)
	山崎 優子	衣笠総合研究機構	客員協力研究員 (プロジェクト研究員)
	平岡 義博	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 (上席研究員)
	浜田 寿美男	衣笠総合研究機構 人間科学研究 研究所	客員協力研究員 (上席研究員)
	土田 菜穂	OIC 総合研究機構	客員協力研究員
	Barratt,Peg.	OIC 総合研究機構	客員協力研究員
	川本 静香	OIC 総合研究機構 ものづくり質的研究センター	客員協力研究員
	森川 綾女	OIC 総合研究機構	客員協力研究員
その他の学外者	川島 康史	(一社) 日本男性相談フォーラ ム	相談員
	高橋 康史	名古屋市立大学	専任講師
	和田 一郎	花園大学	教授
	野崎 祐人	京都大学大学院人間環境学研 究科	博士課程後期課程
	妹尾 麻美	同支社大学文化情報学部	助教
	三品 拓人	関西大学	日本学術振興会特 別研究員 PD
	坂田陽子	愛知淑徳大学	教授
	春日彩花	大阪大学	助教
	水野篤夫	京都市ユースサービス協会	
	横江美佐子	京都市ユースサービス協会 京 都市南青少年活動センター	
	竹田 明子	京都市ユースサービス協会	事務局担当
	西垣 美穂子	明星大学	准教授
	首藤 祐介	広島国際大学	講師
	都賀 美有紀	関西学院大学工学部	助教
	與久田 巖	奈良大学	教授
研究所・センター構成員	計 232 名 (うち学内の若手研究者 計 107 名)		

### Ⅲ. 研究業績 (公開項目) ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2022年3月31日時点)  
また、書式Bの研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年 月	発行所、発表雑誌(及び 巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	稲葉 光行	混合研究法の手引きー ートレジャーハントで	分担執筆	2021 年 4	遠見書房	マイク・フェター ズ, 抱井 尚子, 河	39-52



		学ぶ研究デザインから論文の書き方まで		月		村 洋子, 稲葉 光行, 井上 真智子, 尾島 俊之, 本原理子, 榎原 麗, エレン・ルビンスタイン	
2	松田 亮三	Coronavirus Politics: The Comparative Politics and Policy of COVID-19.	共著	2021年	University of Michigan Press	Takashi Nagata, Akihito Hagihara, Alan Kawarai Lefor, Ryozo Matsuda, and Monika Steffen	
3	中村 正	たのしく学ぶ社会福祉: 誰もが人間らしく生きる社会をつくる (新・MINERVA 福祉ライブラリー 41)/第2章 家族をとおして社会を考えてみる——親密な関係における社会病理とジェンダーの視点から	分担執筆	2021年 5月	ミネルヴァ書房	中村正、◎丹波史紀、石田賀奈子、黒田 学	
4	中村 正	どうする日本の家族政策 (いま社会政策に何ができるか 3): 分担執筆 「DV・子ども虐待被害者の脱暴力化支援——親密な関係性における暴力への介入」	分担執筆	2021年 11月	ミネルヴァ書房		
5	石田 賀奈子	第2章「社会的養護の制度と動向」みんなで育てる家庭養護シリーズ第1巻 『家庭養護のしくみと権利擁護』	共著	2021年	明石書店	相澤仁*編集代表、伊藤嘉余子*編者、澁谷昌史*編者石田賀奈子、安藤藍、島玲志、林浩康、石田慎二、栄留里美	
6	石田 賀奈子	楽しく学ぶ社会福祉	共編者 (共編著者)	2021年 5月	ミネルヴァ書房	黒田 学、長谷川 千春、丹波 史紀、石田賀奈子、中村 正、田村 和宏、呉 世雄、宮口 幸治、桜井 啓太、松田 亮三、鎮目真人、竹内 謙彰、岡田 まり、秋葉 武、前田 信彦	
7	安田 裕子	児童虐待における司法面接と子ども支援—ともに歩むネットワーク構築をめざして	共編者 (共編著者)	2021年 12月	北大路書房	田中晶子・安田裕子・上宮愛	
8	佐藤 達哉	Jaan Valsiner in Japan: The Trajectory Equifinality Approach (TEA)	共著	2021年 10月	SpringerIn: Wagoner B., Christensen B.A., Demuth C. (eds) Culture as Process.	Sato T., Tsuchimoto T., Yasuda Y., Kido A.	443-453
9	佐藤 達哉	臨床心理学史	単著	2021年 11月	東大出版会		
10	佐藤 達哉	文化心理学の立場から; 「実存の表現の多様性」の光と影	単著	2021年 12月	新曜社ソーシャル・コンストラクショニズムと対人支援の心理学	サトウタツヤ	79-100
11	佐藤 達哉	流れを読む心理学史 補訂版	共著	2022年 2月	有斐閣	サトウタツヤ・高砂美樹	
12	大谷 いづみ	『見捨てられる<いのち>を考える——京都ALS 囁託殺人と人工呼吸器トリアージから』安藤泰至・島蘭進 (編著)	分担執筆	2021年 10月	晶文社		
13	岡本 尚子	立方体の切断課題遂行における学習者の視線移動の特徴—視線移動計測実験の分析を通して—	共著	2021年 9月	数学教育学会誌 62(1・2)	青木駿介, 岡本尚子, 黒田恭史	121-129
14	岡本 尚子	妊娠期女性用 QOL 尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	共著	2021年 10月	Journal of Health Psychology Research (印刷中)	孫怡, 矢藤 優子, 妹尾 麻美, 神崎 真実, 肥後 克己, 川本 静香, 中田 友貴, 安田 裕子, 鈴木 華子, 岡本 尚子, サト	

						ウタツヤ	
15	岡本 尚子	何が調査への参加継続を支えるのかー妊婦を対象とした縦断研究「いばらきコホート調査」をもとに	共著	2021年 12月	パーソナリティ研究 30(3)	神崎真実, 妹尾麻美, 孫怡, 肥後克己, 土本哲平, 中田友貴, 鈴木華子, 安田裕子, サトウタツヤ, 岡本尚子, 矢藤優子	130-133
16	三田村 仰	三田村仰.「ケースフォーミュレーション: 学派を超えたアプローチ」p. xx. 岩壁茂・遠藤利彦・黒木俊秀・中嶋義文・中村知靖・橋本和明・増沢高・村瀬嘉代子(編)『臨床心理学スタンダードテキスト』	分担執筆	2021年	金剛出版	岩壁茂・遠藤利彦・黒木俊秀・中嶋義文・中村知靖・橋本和明・増沢高・村瀬嘉代子(編), 三田村仰	
17	三田村 仰	担当部分 1: 三田村仰・瀬口篤史.「学習」p.56.担当部分 2: 瀬口篤史・三田村仰.「強化」p.90.担当部分 3: 三田村仰・瀬口篤史.「行動主義」p.122-123 監修者: 野島一彦(監修), 森岡正芳・岡村達也・坂井誠・黒木俊秀・津川律子・遠藤利彦・岩壁茂(編)『臨床心理学中辞典』	分担執筆	2021年		野島一彦(監修), 森岡正芳・岡村達也・坂井誠・黒木俊秀・津川律子・遠藤利彦・岩壁茂(編), 三田村仰・瀬口篤史/瀬口篤史・三田村仰	56, 90, 204, 122-123
18	三田村 仰	三田村仰(2021). 機能的アサーションという視点-「カタチ」なきアサーション. 精神療法増刊8号, 40-43	単著	2021年	金剛出版精神療法 増刊8号	三田村仰	40-43
19	三田村 仰	三田村仰.「第11章 アクセプタンス&コミットメント・セラピー(ACT)もしくは単に行動療法-機能的文脈主義の立場からの同化的統合」p.164-175. 福島哲夫・杉原保史(編)『統合的心理療法ハンドブック』	分担執筆	2021年 4月	誠信書房	福島哲夫・杉原保史(編), 三田村仰	
20	三田村 仰	三田村仰(2021). 機能的アサーションという視点-「カタチ」なきアサーション. 平木典子・「精神療法」編集日(編). 精神療法 増刊第8号: アサーション・トレーニング活用術. 金剛出版. p. 37-40.	単著	2021年 9月	金剛出版	平木典子・「精神療法」編集日(編), 三田村仰	37-40
21	谷 晋二	日本語版 Child and Adolescent Mindfulness Measure の作成及び信頼性・妥当性の検討	共訳	2021年 12月	遠見書房		
22	林 勇吾	認知モデリングーACT-R理論に基づく心の解明ー	単訳	2021年 8月	共立出版	林勇吾	1-344
23	竹内 謙彰	新・MINERVA 福祉ライブラリー41 たのしく学ぶ社会福祉ー誰もが人間らしく生きる社会を作るー	分担執筆	2021年 5月	ミネルヴァ書房		
24	美馬 達哉	オーファンドラッグの出会い損ない、『身体と環境をめぐる世界史: 生政治からみた「幸せ」になるためのせめぎ合いとその技法』	分担執筆	2021年	人文書院	服部 伸	168-194
25	斎藤 真緒	「一人ひとりの権利が守られる社会へ 鼎談	その他	2021年 11月	全日本民医連民医連新聞(1748)		

		ヤングケアラーを考える」		月			
26	斎藤 真緒	「ヤングケアラー 問題の顕在化」『最新教育動向 2022』	分担執筆	2021年 12月	明治図書		182-185
27	斎藤 真緒	「子ども・若者ケアラー支援から考えるケアの政治—ケアラーをめぐる政治の射程」富士谷あつ子・新川達郎編『フランスに学ぶジェンダー平等の推進と日本のこれから—パリテ法制定 20周年をこえて』	分担執筆	2022年 1月	明石書店		235-248
28	斎藤 真緒	『子ども・若者ケアラーの声からはじまる—ヤングケアラー支援の課題』	共編者 (共編著者)	2022年 2月	クリエイツかもがわ		

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	松田亮三	医療機構のレジリエンス:COVID-19 流行初期対応での課題	単著	2021年	日本医療福祉政策学会医療福祉政策研究 4(1)	松田 亮三	1-11	
2	松田亮三	社会保障・社会福祉におけるサービス提供—必要と給付の間で	単著	2021年 4月	ミネルヴァ書房丹波史紀・石田賀奈子・黒田学・長谷川千春編著 たのしく学ぶ社会福祉誰もが人間らしく生きる社会をつくる			
3	松田亮三	ゲノム情報を用いた健康予測サービス：課題と政策的含意	単著	2021年 7月	保健医療社会学論集 32(1)	松田亮三	3-13	
4	松田亮三	健康課題のグローバルな緊密化をふまえた共通理念：健康権と普遍医療給付 (特集 コロナ禍を考える(6)今後に向けて)	単著	2022年 1月	非営利・協同総合研究所いのちとくらしのちとくらし研究所報 (77)	松田 亮三	38-42	
5	中村正	臨床社会学の方法(33) その「ナラティブ」は誰の言葉なのか—沈黙という声、内なる他者の声、支配的な声—	単著	2021年 6月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(1)			
6	中村正	パワーハラスメント加害者に対する行動変容の支援—ナラティブ・セラピーによる対話をとおして	単著	2021年 6月	都市問題 2021年 6月号			
7	中村正	学校のなかの「差別」を考える (3) マイクロアグレッションについて	単著	2021年 6月	教職研修 49(10)			
8	中村正	臨床社会学の方法 (34) 関係の非対称性と権力の勾配—「俺の持っている講義が休講になったのでこれから会いたい」とラインで言われた女子学生と考えたこと—	単著	2021年 9月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(2)			
9	中村正	臨床社会学の方法 (35) 行方不明の<加害者>たち—コミュニケーションの微細な懸隔—	単著	2021年 12月	12(3)			
10	中村正	児童福祉において「男性問題としての暴力」をいかに扱うか—男親と「暴力と加害・責任」の対話を	単著	2021年 12月	日本子ども虐待防止学会 23(3)			

		拓く試み						
11	中村正	臨床社会学の方法(36) 暴力の文化 - Micro Action for Violence-Free プロジェクト構想-	単著	2022年3月	対人援助学会対人援助学マガジン 12(4)			
12	若林宏輔	Investigation of Information Requirements for Smartwatch-Based Evacuation Support System	共著	2021年7月	the 23th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI' 21), LNCS 12796		149-152	
13	若林宏輔	A proposal for an evacuation route recommendation method based on multi-objective GA considering the acceptability of evacuees	共著	2021年7月	10th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2021)		158-161	
14	若林宏輔	An Analysis of Gaze and Operation Differences of FPS Beginners and Experts	共著	2021年10月	IEEE 10th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2021)		158-161	
15	若林宏輔	観光工学—本来の旅のあり方と旅の支援—	単著	2021年12月	計測と制御 60(12)		157-160	
16	大谷いづみ	「歴史の忘却と連続性—語られてきたナチス「安楽死」政策とコロナ禍の現在」	単著	2021年12月	医薬情報研究所『新薬と臨床』 70(12)		59 (1535)-66 (1542)	
17	岡本尚子	立方体の切断課題遂行時における学習者の視線移動の特徴—視線移動計測実験の分析を通して—	共著	2021年9月	数学教育学会誌 62(1・2)	青木駿介, 岡本尚子, 黒田恭史	121-129	
18	岡本尚子	妊娠期女性用 QOL 尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	共著	2021年10月	Journal of Health Psychology Research (印刷中)	孫怡, 矢藤 優子, 妹尾麻美, 神崎 真実, 肥後克己, 川本 静香, 中田友貴, 安田 裕子, 鈴木華子, 岡本 尚子, サトウ タツヤ		
19	岡本尚子	何が調査への参加継続を支えるのか—妊婦を対象とした縦断研究「いばらきコホート調査」をもとに	共著	2021年12月	パーソナリティ研究 30(3)	神崎真実, 妹尾麻美, 孫怡, 肥後克己, 土本哲平, 中田友貴, 鈴木華子, 安田裕子, サトウタツヤ, 岡本尚子, 矢藤優子	130-133	
20	中鹿直樹	教員の褒める行動の拡大に向けた手続きの効果—特別支援学校高等部教員の1事例を検討する—	共著	2021年8月	対人援助学会対人援助学研究 11	土田 菜穂・中鹿 直樹	107-115	
21	矢藤優子	妊娠期女性用 QOL 尺度の作成と信頼性・妥当性の検討	共著	2021年	日本健康心理学会	孫 怡, 矢藤 優子, 妹尾麻美, 神崎 真実, 肥後克己, 川本 静香, 中田友貴, 安田 裕子, 鈴木華子, 岡本 尚子, サトウタツヤ		
22	矢藤優子	何が調査への参加継続を支えるのか—妊婦を対象とした縦断研究「いばらきコホート調査」をもとに	共著	2022年3月	日本パーソナリティ心理学会パーソナリティ研究 30(3)	神崎 真実, 妹尾 麻美, 孫 怡, 肥後 克己, 土元哲平, 中田 友貴, 鈴木華子, 安田 裕子, サトウタツヤ, 岡本 尚子, 矢藤 優子	130-133	
23	安田裕子	法と心理学会第 21 回大会 ワークショップ D. A. Poole 著『Interviewing Children』から学ぶこと	共著	2021年12月	法と心理 21(1)	田中晶子・羽瀨由子・仲真紀子・安田裕子・田中周子・佐々木真吾・田鍋佳子・赤嶺亜紀	91-97	
24	安田裕子	法と心理学会第 21 回大会 ワークショップ 父母	共著	2021年12月	法と心理 21(1)	松本克美・小川富之・安田裕子・吉田容子・金成	67-73	

		間での子の奪い合い紛争をめぐると心理				恩		
25	安田裕子	トランスビューからマルチビューへの展開を通じた経験の物語化への方法論—ボランティア体験の言語化を促進する実践的研究へのアプローチとして	共著	2022年2月	ボランティア学研究 22	山口洋典・北出慶子・遠山千佳・村山かなえ・安田裕子	97-112	
26	安田裕子	子どもを「産む」と決めること	共著	2022年3月	質的心理学研究(第20号発刊記念臨時特集企画)(20)	妹尾麻美・三品拓人・安田裕子	140-147	
27	安田裕子	脳卒中患者における不安を中心とした経時的心理変化—TEM(複線径路等至性モデリング)による分析	共著	2022年3月	対人援助学研究 12	原田梓・安田裕子・三田村仰	28-42	
28	佐藤達哉	ナラティブの心理学	単著	2021年4月	日本コミュニケーション障害学会コミュニケーション障害学 38(1)		75-78	
29	佐藤達哉	ヤーンの古希を言祝ぐ：日本ならびに立命館大学における TEM とヤーンのネットワークの拡大(2) 2009年から—対人援助学&心理学の縦横無尽(30)	共著	2021年6月	対人援助学会対人援助学マガジン 45		85-99	
30	佐藤達哉	対人援助学&心理学の縦横無尽(31)	単著	2021年9月	対人援助学マガジン(46)		97-99	
31	佐藤達哉	対人援助学&心理学の縦横無尽(32)	単著	2021年12月	対人援助学会対人援助学マガジン 47		108-112	
32	佐藤達哉	教師のための認知バイアス入門	単著	2022年1月	明治図書道徳教育 62(1)		38-41	
33	佐藤達哉	対人援助学&心理学の縦横無尽(33)	単著	2022年3月	対人援助学会対人援助学マガジン(48)		106-111	
34	佐藤達哉	TEA(複線径路等至性アプローチ)における記号概念の考察—パース、ヴィゴツキー、ヴァルシナーを手がかりに	共著	2022年3月	立命館大学人間科学研究所立命館人間科学研究(44)		15-31	
35	佐藤達哉	TEM(複線径路等至性モデリング)の新たな理論的展開—記号圏とイメージネーション理論を踏まえて	共著	2022年3月	(44)		49-64	
36	三田村仰	三田村仰(2021).<書評>原井宏明著『該知行動療法実践のコツ—臨床家の治療パフォーマンスをあげるための技術』臨床心理学. 21(3), 375-376	単著	2021年5月	臨床心理学			
37	三田村仰	三田村仰(2021).夫婦(カップル)の危機!? (連載:カップルセラピーは夫婦を危機から救えるか(1)).こころの科学. 218, 10-15.	単著	2021年6月	日本評論社こころの科学 218号	三田村仰	10-15	
38	三田村仰	加藤宏公・柳澤博紀・奥村英雄・井上真人・三田村仰(2021).慢性期統合失調症のリハビリ支援におけるアクセプタン	共著	2021年9月	一般社団法人日本認知・行動療法学会認知行動療法研究 47(3)	加藤宏公・柳澤博紀・奥村英雄・井上真人・三田村仰	249-260	

		ス&コミットメント・セラピー (ACT) の効果の検討-シングルケースデザイン-. 認知行動療法研究, 47(3), 249-260						
39	三田村仰	谷千聖・三田村仰 (2021) 承認による応答が被共感体験に及ぼす効果の検討-模擬カウンセリングを用いた実証研究の試み-. 臨床心理学, 21 (5), 608-617.	共著	2021年9月	金剛出版臨床心理学21(5)	谷千聖・三田村仰	608-617	
40	三田村仰	三田村仰 (2021). カップルセラピーってなに? (連載: カップルセラピーは夫婦を危機から救えるか(2)) .こころの科学 . 219, 129-135.	単著	2021年9月	日本評論社	三田村仰	129-135	
41	三田村仰	田中恒彦・竹林由武・三田村仰 (2021) .<巻頭言> 「遠隔認知行動療法」の特集にあたって. 認知行動療法研究, 47(3), 219-220.	共著	2021年9月	認知行動療法研究47(3)		219-220	
42	三田村仰	三田村仰 (2021). 二人のいつもの不幸なパターン (連載: カップルセラピーは夫婦を危機から救えるか(3)) .こころの科学 . 220, 98-104.	単著	2021年11月	日本評論社こころの科学 220	三田村仰	98-104	
43	三田村仰	三田村仰 (2021). J・M・ゴットマンの観察研究 (1) (連載: カップルセラピーは夫婦を危機から救えるか(4)) .こころの科学. 221,120-128.	単著	2021年12月	日本評論社こころの科学	三田村仰	120-128	
44	三田村仰	原田 梓・安田裕子・三田村仰 (2022). 脳卒中患者における不安を中心とした経時的心理変化-TEM (複線径路等至性モデリング) による分析-. 対人援助学研究. p.28-42.	共著	2022年2月	対人援助学研究			
45	三田村仰	三田村仰・谷千聖 (2022). 共通要因アプローチと心理療法のエビデンス. 立命館人間科学研究, 44, 79-91.	共著	2022年3月	立命館人間科学研究44			
46	三田村仰	三田村仰 (2022). J・M・ゴットマンの観察研究 (2) -別れの四重奏 (連載: カップルセラピーは夫婦を危機から救えるか(5)) .こころの科学. 222, p.113-121.	単著	2022年3月	日本評論社こころの科学			
47	谷晋二	日本語版 Child and Adolescent Mindfulness Measure の作成及び信頼性・妥当性の検討	共著	2022年3月	立命館人間科学研究44		93-102	
48	林勇吾	Investigating gaze behavior of dyads in a collaborative explanation task using a concept map: Influence	共著	2021年6月	Proceedings of the1st Annual Meeting of the International Society of Learning Sciences(ISLS2021)	Hayashi, Y.Shimojo,S.	149-152	

		of facilitation prompts on perspective taking						
49	林勇吾	Integrating Knowledge in Collaborative Concept Mapping: Cases in an Online Class Setting	共著	2021年 6月	Proceedings of the 17th International Conference on Intelligent Tutoring Systems (ITS2021)	Morita, J.Ohmoto, Y.Hayashi, Y.	99-106	
50	林勇吾	Investigating Clues for Estimating ICAP States based on Learners' Behavioural Data during Collaborative Learning	共著	2021年 6月	Proceedings of the 17th International Conference on Intelligent Tutoring Systems (ITS2021)	Ohmoto, Y.Shimojo, S.Morita, J.Hayashi, Y.	224-231	
51	林勇吾	Ex-Ante and Ex-Post Feature Evaluation of Online Courses Using the Kano Model	共著	2021年 6月	Proceedings of the 17th International Conference on Intelligent Tutoring Systems (ITS2021)	Moritz, D.Hayashi, Y.	310-320	
52	林勇吾	協同学習における学びの深化プロセス_ICAP フレームワークによる検討	単著	2021年 10月	教育システム情報学会誌 38(4)	林勇吾	in press	
53	林勇吾	Laboratory Study on ICAP Interventions for Interactive activity Investigation Based on Learning Performance	共著	2021年 11月	Proceedings of the 29th International Conference on Computers in Education. Asia-Pacific Society for Computers in Education in press	Shimojo, S. Hayashi, Y.		
54	林勇吾	協同学習におけるコンセプトマップを用いた説明活動のファシリテーション 協調的プロセスと論争的プロセスに着目した検討	共著	2021年 12月	認知科学 28(4)	下條志巖 林勇吾	inpress	
55	林勇吾	ロボットを用いた創造的認知の支援に向けたファシリテーション方法に関する実験的検討	共著	2021年 12月	知能と情報 33(6)	林勇吾 下條志巖	inpress	
56	林勇吾	日本語の語彙レベルでの言語同調の発生とトップダウン処理の影響：日本語版絵合わせ課題のオンライン実験による検討	共著	2022年 3月	日本基礎心理学会基礎心理学研究 40(2)		inpress	
57	美馬達哉	Bilateral Representation of Sensorimotor Responses in Benign Adult Familial Myoclonus Epilepsy: An MEG Study.		2021年	Frontiers in neurology 12	Teppey Matsubara, Seppo P Ahlfors, Tatsuya Mima, Koichi Hagiwara, Hiroshi Shiget, Shozo Tobimatsu, Yoshinobu Goto, Steven Stufflebeam	759866-759866	
58	美馬達哉	Event-Related Desynchronization and Corticomuscular Coherence Observed During Volitional Swallow by Electroencephalography Recordings in Humans.		2021年	Frontiers in human neuroscience 15	Satoko Koganemaru, Fumiya Mizuno, Toshimitsu Takahashi, Yu Takemura, Hiroshi Irisawa, Masao Matsuhashi, Tatsuya Mima, Takashi Mizushima, Kenji Kansaku	643454-643454	
59	美馬達哉	Null Effect of Transcranial Static Magnetic Field Stimulation over the Dorsolateral Prefrontal	共著	2021年 4月	Brain sciences 11(4)	Watanabe Tatsunori, Kubo Nami, Chen Xiaoxiao, Yunoki Keisuke, Matsumoto Takuya, Kuwabara		

		Cortex on Behavioral Performance in a Go/NoGo Task.				Takayuki, Sunagawa Toru, Date Shota, Mima Tatsuya, Kirimoto Hikari		
60	美馬達哉	Effects of transcranial static magnetic stimulation over the primary motor cortex on local and network spontaneous electroencephalogram oscillations.	共著	2021年4月	Scientific reports 11(1)	Shibata Sumiya, Watanabe Tatsunori, Yukawa Yoshihiro, Minakuchi Masatoshi, Shimomura Ryota, Ichimura Sachimori, Kirimoto Hikari, Mima Tatsuya	8261	
61	美馬達哉	Null Effect of Transcranial Static Magnetic Field Stimulation over the Dorsolateral Prefrontal Cortex on Behavioral Performance in a Go/NoGo Task.		2021年4月	Brain sciences 11(4)	Watanabe Tatsunori, Kubo Nami, Chen Xiaoxiao, Yunoki Keisuke, Matsumoto Takuya, Kuwabara Takayuki, Sunagawa Toru, Date Shota, Mima Tatsuya, Kirimoto Hikari		
62	美馬達哉	Effects of transcranial static magnetic stimulation over the primary motor cortex on local and network spontaneous electroencephalogram oscillations.		2021年4月	Scientific reports 11(1)	Shibata Sumiya, Watanabe Tatsunori, Yukawa Yoshihiro, Minakuchi Masatoshi, Shimomura Ryota, Ichimura Sachimori, Kirimoto Hikari, Mima Tatsuya	8261-8261	
63	美馬達哉	配分される死：パンデミックとトリアージ（特集「死」をいかに語りうるか）	単著	2021年6月	新教出版社福音と世界76(6)	美馬達哉	6-11	
64	美馬達哉	Transient Modulation of Working Memory Performance and Event-Related Potentials by Transcranial Static Magnetic Field Stimulation over the Dorsolateral Prefrontal Cortex.	共著	2021年6月	Brain sciences 11(6)	Chen Xiaoxiao, Watanabe Tatsunori, Kubo Nami, Yunoki Keisuke, Matsumoto Takuya, Kuwabara Takayuki, Sunagawa Toru, Date Shota, Mima Tatsuya, Kirimoto Hikari		
65	美馬達哉	Use of transcranial direct current stimulation in poststroke postural imbalance.	共著	2021年6月	BMJ case reports 14(6)	Tonomura Tadayasu, Satow Takeshi, Hyuga Yuko, Mima Tatsuya		
66	美馬達哉	Use of transcranial direct current stimulation in poststroke postural imbalance.		2021年6月	BMJ case reports 14(6)	Tonomura Tadayasu, Satow Takeshi, Hyuga Yuko, Mima Tatsuya		
67	美馬達哉	Transient Modulation of Working Memory Performance and Event-Related Potentials by Transcranial Static Magnetic Field Stimulation over the Dorsolateral Prefrontal Cortex.		2021年6月	Brain sciences 11(6)	Chen Xiaoxiao, Watanabe Tatsunori, Kubo Nami, Yunoki Keisuke, Matsumoto Takuya, Kuwabara Takayuki, Sunagawa Toru, Date Shota, Mima Tatsuya, Kirimoto Hikari		
68	美馬達哉	配分される死：パンデミックとトリアージ（特集「死」をいかに語りうるか）		2021年6月	新教出版社福音と世界76(6)	美馬達哉	6-11	
69	美馬達哉	Midfrontal theta as moderator between beta oscillations and precision control.	共著	2021年7月	NeuroImage 235	Watanabe Tatsunori, Mima Tatsuya, Shibata Sumiya, Kirimoto Hikari	118022	



70	美馬達哉	Cybernic treatment with wearable cyborg Hybrid Assistive Limb (HAL) improves ambulatory function in patients with slowly progressive rare neuromuscular diseases: a multicentre, randomised, controlled crossover trial for efficacy and safety (NCY-3001).	共著	2021年7月	Orphanet journal of rare diseases 16(1)	Nakajima Takashi, Sankai Yoshiyuki, Takata Shinjiro, Kobayashi Yoko, Ando Yoshihito, Nakagawa Masanori, Saito Toshio, Saito Kayoko, Ishida Chiho, Tamaoka Akira, Saotome Takako, Ikai Tetsuo, Endo Hisako, Ishii Kazuhiro, Morita Mitsuya, Maeno Takashi, Komai Kiyonobu, Ikeda Tetsuhiko, Ishikawa Yuka, Maeshima Shinichiro, Aoki Masashi, Ito Michiya, Mima Tatsuya, Miura Toshihiko, Matsuda Jun, Kawaguchi Yumiko, Hayashi Tomohiro, Shingu Masahiro, Kawamoto Hiroaki	304	
71	美馬達哉	Midfrontal theta as moderator between beta oscillations and precision control.		2021年7月	NeuroImage 235	Watanabe Tatsunori, Mima Tatsuya, Shibata Sumiya, Kirimoto Hikari	118022-118022	
72	美馬達哉	Cybernic treatment with wearable cyborg Hybrid Assistive Limb (HAL) improves ambulatory function in patients with slowly progressive rare neuromuscular diseases: a multicentre, randomised, controlled crossover trial for efficacy and safety (NCY-3001).		2021年7月	Orphanet journal of rare diseases 16(1)	Nakajima Takashi, Sankai Yoshiyuki, Takata Shinjiro, Kobayashi Yoko, Ando Yoshihito, Nakagawa Masanori, Saito Toshio, Saito Kayoko, Ishida Chiho, Tamaoka Akira, Saotome Takako, Ikai Tetsuo, Endo Hisako, Ishii Kazuhiro, Morita Mitsuya, Maeno Takashi, Komai Kiyonobu, Ikeda Tetsuhiko, Ishikawa Yuka, Maeshima Shinichiro, Aoki Masashi, Ito Michiya, Mima Tatsuya, Miura Toshihiko, Matsuda Jun, Kawaguchi Yumiko, Hayashi Tomohiro, Shingu Masahiro, Kawamoto Hiroaki	304-304	
73	美馬達哉	People with High Empathy Show Increased Cortical Activity around the Left Medial Parieto-Occipital Sulcus after Watching Social Interaction of On-Screen Characters.		2022年1月	Cerebral cortex (New York, N.Y. : 1991)	Masayoshi Hamada, Jun Matsubayashi, Kenta Tanaka, Makiko Furuya, Masao Matsubashi, Tatsuya Mima, Hidenao Fukuyama, Akira Mitani		
74	美馬達哉	Brain-Computer Interface Training		2022年2月	Neurorehabilitation and neural repair	Ippei Nojima, Hisato Sugata, Hiroki	83-96	

		Based on Brain Activity Can Induce Motor Recovery in Patients With Stroke: A Meta-Analysis.			36(2)	Takeuchi, Tatsuya Mima		
75	泉 朋子	Verification of the Appropriate Number of Communications between Drivers of Bicycles and Vehicles	共著	2021年7月	the 23th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI' 21), LNCS 12764			

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	稲葉 光行	「創造と学習を横断する遊びプロジェクト-II」成果報告	2021年7月	ARC Days 2021	宮本敬太, 稲葉光行
2	稲葉 光行	Ten Years of Dialogue: Reflecting on Replaying Japan	2021年8月	Replaying Japan Conference 2021	Koichi Hosoi, Rachael Hutchinson, Mitsuyuki Inaba, Akinori Nakamura, Jérémie Pelletier-Gagnon, Geoffrey Rockwell and Mimi Okabe
3	稲葉 光行	Examples of Ways to Achieve "Integration" in Mixed Methods Research - A Team Approach to Polyphonic Integration -	2021年10月	2021 MMIRA Asia Regional/7th JSMMR Annual Conference	Hisako Kakai, Taichi Hatta, Chikako Okawara, Mitsuyuki Inaba, Michiko Abe, & Tomoko Kamei
4	稲葉 光行	Hurdles in Learning and Implementing Mixed Methods Research in Nursing: An Analysis of Focus Group Transcripts Using GTxA	2021年10月	2021 MMIRA Asia Regional/7th JSMMR Annual Conference	Mitsuyuki Inaba, Chikako Okawara, Sachiko Makabe, Miwako Fukuda, Manami Nozaki, Michiko Abe and Hisako Kakai
5	稲葉 光行	Examples of Achieving "Integration" in Mixed Methods Research: A Mixed Analysis Using Quantitative Text Mining and a Qualitative Content Analysis-	2021年10月	2021 MMIRA Asia Regional/7th JSMMR Annual Conference	Chikako Okawara, Mitsuyuki Inaba, Sachiko Makabe, Miwako Fukuda, Manami Nozaki, Michiko Abe and Hisako Kakai
6	稲葉 光行	「創造と学習を横断する遊びプロジェクト-II」成果報告	2022年2月	文部科学省国際共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ国際共同研究拠点」・「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」プロジェクト/2021年度成果発表会	シン・ジュヒョン, 宮本敬太, 稲葉光行
7	稲葉 光行	目撃者に対する捜査官の言動が識別判断過程に及ぼす影響	2022年2月	立命館大学人間科学研究所 2021年度年次総会	山崎優子, 山田早紀, 稲葉光行
8	松田 亮三	新型コロナウイルス感染症への公衆衛生上の対応—揺らぎをふまえた感染症対策へ	2021年5月	地域社会学会第46回大会シンポジウム	
9	松田 亮三	欧州における新型コロナウイルス感染症の影響と対応—社会保護上の対応を中心に	2021年11月	日本地域経済学会第33回大会共通論題	
10	松田 亮三	Maintaining universal coverage in the era of widening inequalities: Challenges in the Japanese statutory health insurance	2022年3月	The 2nd Forum on Welfare State and Social Policy	
11	中村 正	Some significant points of considering Japanese experience of therapeutic jurisprudence in the field on domestic violence	2021年6月	Asian Criminological Society 12th Annual Conference	
12	中村 正	若年者と司法福祉	2021年12月	第21回日本司法福祉学会	
13	中村 正	刑事司法は<社会問題>をどのように視野に入れるか—「情状」とは何かをとおして考える	2022年1月	第37回日本社会病理学会	西谷裕子, 市川岳仁, 後藤弘子, 指宿信
14	中村 正	ステイホームとケアリーパー—ケアリーパーがコロナ禍の社会を生きるということ	2022年1月	第13回対人援助学会	浦田雅夫, ブローハン聡,

15	石田 賀奈子	子ども家庭福祉における権利保障実現に向けた課題	2021年 8月	日本医療政策学会第5回研究会	
16	石田 賀奈子	児童養護施設退所者の退所後の生活状況と幼少期体験の関連に関する実態調査	2021年 9月	日本社会福祉学会第69回秋季大会	和田一郎
17	石田 賀奈子	児童養護施設を経験した若者の幼少期逆境体験に関連する要因	2022年 2月	2022/2/13「児童養護施設を経験した若者の幼少期逆境体験に関連する要因」2021年度人間科学研究所年次総会シンポジウム「ライフコースをささえる人間科学の課題—‘18歳の崖’を乗り越えるシームレスな支援に向けて」	
18	若林 宏輔	オンラインによる司法面接の検討—セクシュアル・ハラスメントの被害事実の確認—	2021年 9月	日本心理学会大会第85回大会	武田 悠衣・中田 友貴・若林 宏輔・仲真紀子
19	若林 宏輔	取調べ映像視聴時における視点と説示が評価に与える影響	2021年 9月	日本心理学会第85回大会	森井花音・若林宏輔
20	若林 宏輔	正規雇用者における職場での対人関係に関する調査	2021年 10月	法と心理学会第22回大会	武田悠衣・中田友貴・若林宏輔
21	若林 宏輔	裁判官説示および取調べ映像の有無が被告人評価に与える影響	2021年 10月	法と心理学会第22回大会	森井花音・若林宏輔
22	若林 宏輔	罪状況および罰の程度、有罪確率の違いが他者負罪型司法取引の意志決定に与える影響	2021年 10月	法と心理学会第22回大会	廣田貴也・若林宏輔・サトウタツヤ
23	若林 宏輔	録画された会話の観察時の提示方法の違いが原因帰属に与える影響—日常会話における2画面提示方式の効果	2021年 10月	法と心理学会第22回大会	水野亮太・若林宏輔
24	大谷 いづみ	安楽死・尊厳死論の歴史と宗教—「わたし・たち」の物語を語り直すために—	2021年 6月	東本願寺教学研究「生老病死と現代」所内研究会	大谷いづみ
25	大谷 いづみ	「開会の挨拶」・報告「分断ではなく架橋へ」	2021年 11月	情報保障のいまとこれから——生存学研究所の取り組み	大谷いづみ
26	大谷 いづみ	教育におけるアクセシビリティと障害学生が存在が拓くSDG's社会の未来	2022年 2月	産業社会学部FD「教育におけるアクセシビリティと障害学生が存在が拓くSDG's社会の未来」	大谷いづみ・川端美季
27	大谷 いづみ	「障害の経験」を共有する痛み(と希望) (閉会挨拶に代えて)	2022年 2月	「障害者と労働」研究会 2021年度公開研究会「重度障害者の介助付き就労の可能性——「健常者より優秀でないと社会で生きていけない」のか?」	
28	大谷 いづみ	高等教育研究機関におけるハンドル形電動車いす利用者の移動アクセシビリティ——欧米韓日を中心——	2022年 2月	2021年度人間科学研究所年次総会	大谷いづみ・川端美季
29	大谷 いづみ	ラウンドテーブル:東アジアにおける障害者の地域における自立生活 座長報告	2022年 2月	障害学国際セミナー 2022	大谷いづみ
30	岡本 尚子	Consideration of Characteristics of Eye Movement and Brain Activity during Mental Rotation Tasks	2021年 7月	The 14th International Congress on Mathematical Education	Tatsuki kondo, Naoko Okamoto, Yasufumi Kuroda
31	岡本 尚子	複合的生理学データを活用した学習者の思考過程解明の可能性について	2021年 9月	第46回教育システム情報学会全国大会	黒田恭史, 近藤竜生, 岡本尚子
32	岡本 尚子	メンタルローテーション課題時の視線移動の特徴の考察	2021年 9月	第46回教育システム情報学会全国大会	近藤竜生, 岡本尚子, 黒田恭史
33	岡本 尚子	二人での打楽器演奏中の脳活動計測による社会性の議論の検討	2022年 2月	第15回日本音楽医療研究会学術集会	江田英雄, 黒田恭史, 岡本尚子, 山崎まどか
34	岡本 尚子	妊娠から産後移行期間における女性QOLの4時点変化について—潜在曲線モデルを用いて	2022年 3月	日本発達心理学会第33回大会	孫怡, 矢藤優子, 神崎真実, 妹尾麻美, 肥後克己, 中田友貴, 安田裕子, 岡本尚子, 鈴木華子, サトウタツヤ
35	矢藤 優子	Links among Mother-Child Interactions, Home Environment, and Children's Strengths and	2021年 7月	The 32th International Congress of Psychology	Yuko Yato, Yi Sun, Peg Barratt, Shaylynn Quinn

		Difficulties			
36	矢藤 優子	母親の個人要因が Covid19 に伴う外出自粛期間中の母子 QOL に与える影響	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	孫 怡、神崎 真実、土元 哲平、破田野 智己、肥後克己、鈴木 華子、サトウ タツヤ、安田 裕子、岡本 尚子、矢藤 優子
37	矢藤 優子	養育者と乳児とのかかわりへの介入は笑顔を増やしストレスを低減する	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	河島 三幸、眞田 和恵、孫 怡、木村 駿斗、矢藤 優子、小島 晴予、引間 理恵
38	矢藤 優子	母親の育児ストレスと子どもへのかかわり、子どもの社会能力に関する縦断的研究—5 ヶ月齢から 12 ヶ月齢の発達的变化—	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	*木村 駿斗 1、孫 怡 4、矢藤 優子 3、河島 三幸 2、眞田 和恵 2、小島 晴予 2、引間 理恵 2
39	矢藤 優子	育児セミナーによる介入が母親の子育て意識に与える影響—育児日誌のテキストマイニングによる検討—	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	李 星鎬、矢藤 優子、孫 怡、河島 三幸、眞田 和恵、小島 晴予、引間 理恵
40	矢藤 優子	6 ヶ月齢児の表情刺激への注視時間と養育者との社会的関係性との関連	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	矢藤 優子、孫 怡、藤戸 麻美、岡本 尚子、安田 裕子、サトウ タツヤ、鈴木 華子、肥後 克己、中田 友貴、破田野 智己、土元 哲平、神崎 真実
41	矢藤 優子	中国農村部における養育者の賞罰行動が子どもの情緒と社会的スキルの発達に与える影響	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	連 傑濤、矢藤 優子、孫 怡
42	矢藤 優子	Covid-19 流行初期と 1 年後の自粛期間中における母親の QOL 変化 —気質特性との関連—	2021 年 9 月	日本パーソナリティ心理学会第 30 回大会	孫怡・神崎真実・土元哲平・肥後克己・サトウタツヤ・安田裕子・鈴木華子・岡本尚子・矢藤優子
43	矢藤 優子	母子関係とオキシトシン分泌量の関連	2021 年 9 月	日本心理学会第 85 回大会	山口 祐司・肥後 克己・岡本 尚子・孫 怡・妹尾 麻美・神崎 真実・中田 友貴・破田野 智己・土元 哲平・安田 裕子・サトウ タツヤ・鈴木 華子・矢藤 優子
44	矢藤 優子	A Comparative Study on the Diversity of Postpartum Childcare Support for Working Women and the Well-being of Mothers and Children in China, Japan, and Korea: Toward Science-Based Childcare and Employment Support	2021 年 10 月	2021 Taiwan Psychological Association (TPA) Conference	Yuko YATO, Yi SUN, Na JIANG, Eunji KIM, Juyeon HAN, Eunsoo CHOI, Seung-Lee DO, Joonha PARK, Yuanhong JI, Tatsuya SATO
45	矢藤 優子	幼児のモノのやりとりにもみられる特徴-3 歳児クラスと 5 歳児クラスの比較-	2021 年 10 月	日本子ども学会 第 17 回子ども学会議	廣瀬翔平・小林優花・園田和子・園田裕紹・矢藤優子
46	矢藤 優子	5 歳児クラスの幼児による 1 歳児クラスの乳児への靴履かせ場面の観察-異年齢交流場面における養育的行動の観察-	2021 年 11 月	日本子育て学会第 13 回大会	廣瀬翔平・小西澄佳・園田和子・園田裕紹・矢藤優子
47	矢藤 優子	脳腫瘍の部位における Rey-Osterrieth 複雑図形の模写・再生の比較 —18 の採点要素別の検討—	2021 年 12 月	第 45 回高次脳機能障害学会学術総会	依光美幸, 他
48	矢藤 優子	日中韓における育児支援リソースの多様性と利用実態、母子の well-being に関する比較研究 育児期の母親を対象としたインタビュー調査の結果から	2022 年 3 月	日本発達心理学会第 33 回大会	司会者：矢藤 優子(立命館大学総合心理学部) ファシリテーター：孫 怡(立命館大学アジア日本研究機構) 話題提供者：安田 裕子(立命館大学総合心理学部) 話題提供者：三品 拓人#(日本学術振興会) 話題提供者：吉 沅洪#(立命館大学人間科学研究科) 話題提供者：陳 婷婷#(立命館大学人間科学研究科) 話題提供者：Park Joonha#(名古屋商科大学)
49	矢藤 優子	コロナ禍における家庭養育環境が親子の QOL に与える影響—日中比較による検討—	2022 年 3 月	日本発達心理学会第 33 回大会	連 傑濤(立命館大学人間科学研究科) 矢藤 優子(立命館大学総合心理学部) 孫 怡(立命館大学アジア日本研究機構) 神崎 真実(立命館グローバルイノベーション研究機構) 肥後 克己#(明治大学) 土元 哲平(立命館大学 OIC 総合研究機構) 岡本 尚子#(立命館大学産業社会学部) 安田 裕子(立命館大学総合心理学部) 鈴木 華子#(立命館大学総合心理学部) 佐藤 達哉(立命館大学総合心理学部)

50	矢藤 優子	簡易版育児ストレス尺度作成の試み	2022年3月	日本発達心理学会第33回大会	木村 駿斗(立命館大学人間科学研究科) 孫 怡(立命館・アジア日本研究機構) 矢藤 優子(立命館大学総合心理学部) 妹尾 麻美(同志社大学) 肥後 克己(明治大学) 神崎 真実(立命館大学総合心理学部) 中田 友貴(立命館大学総合心理学部) 安田 裕子(立命館大学総合心理学部) 岡本 尚子(立命館大学産業社会学部) 鈴木 華子(立命館大学総合心理学部) 佐藤 達哉(立命館大学総合心理学部)
51	矢藤 優子	妊娠から産後移行期間における女性QOLの4時点変化について 潜在曲線モデルを用いて	2022年3月	日本発達心理学会第33回大会	孫 怡(立命館大学) 矢藤 優子(立命館大学) 神崎 真実(立命館大学) 妹尾 麻美(同志社大学) 肥後 克己(明治大学) 中田 友貴(立命館大学) 安田 裕子(立命館大学) 岡本 尚子(立命館大学) 鈴木 華子(立命館大学) 佐藤 達哉(立命館大学)
52	安田 裕子	Japanese Trend of the Therapeutic Jurisprudence: Looking back and looking into the future (Forensic Interview: Looking ahead to the connection from support for victim children to support for perpetrator parents)	2021年6月	Asian Criminological Society 12th Annual Conference	Ibusuki, M., Goto, H., Nakamura, T., Yasuda, Y., & Maruyama, Y.
53	安田 裕子	The process of learning and growing of peer supporters through place management: For curriculum and co-curriculum hybridization	2021年8月	PBL2021	Yamaguchi, H., Kitade, K., Tohyama, C., Yasuda, Y., & Murayama, K.
54	安田 裕子	母親の個人要因が Covid19 に伴う外出自粛期間中の母子QOLに与える影響	2021年9月	日本心理学会第85回大会	孫怡・神崎真実・土元哲平・破田野智己・肥後克己・鈴木華子・サトウタツヤ・安田裕子・岡本尚子・矢藤優子
55	安田 裕子	6 ヶ月齢児の表情刺激への注視時間と養育者との社会的関係性との関連	2021年9月	日本心理学会第85回大会	矢藤優子・孫怡・藤戸麻美・岡本尚子・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・肥後克己・中田友貴・破田野智己・土元哲平・神崎真実
56	安田 裕子	母子の関係とオキシトシン分泌量の関連	2021年9月	日本心理学会第85回大会	山口祐司・肥後克己・岡本尚子・孫怡・神崎真実・中田友貴・土元哲平・安田裕子・サトウタツヤ・鈴木華子・矢藤優子・妹尾麻美・破田野智己
57	安田 裕子	展結について	2021年9月	日本心理学会第85回大会	サトウタツヤ・土元哲平・田中千尋・宮下太陽・安田裕子・森直久
58	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) 一基礎編	2021年9月	日本心理学会第85回大会	安田裕子・サトウタツヤ
59	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) 一応用編	2021年9月	日本心理学会第85回大会	サトウタツヤ・安田裕子
60	安田 裕子	公認心理師の専門性における事実確認を目的とした面接スキル—教育・福祉・司法領域に広がる公認心理師による司法面接の活用とその課題	2021年10月	法と心理学会第22回大会	上宮愛・横光健吾・直原康光・安西敦・田中晶子・安田裕子・仲真紀子
61	安田 裕子	理事会企画シンポジウム① 対人援助学における環境と個人の相互作用 (研究法の観点から 行動分析学と質的研究法 TEA—もの見方ととらえる世界の共通性)	2022年1月	対人援助学会第13回大会	藤信子・中鹿直樹・村本邦子・安田裕子・土田菜穂
62	安田 裕子	生殖の多様性を支える現場は今 (子どもの望んだ女性たちの選択と意味づけのライフストーリー)	2022年2月	第19回日本生殖心理学会・学術集会	杉本公平・山崎圭子・田尻由貴子・登山万佐子・本田恒平・安田裕子
63	安田 裕子	コロナ禍における家庭養育環境が親子のQOLに与える影響—日中比較による検討	2022年3月	日本発達心理学会第33回大会	連傑涛・矢藤優子・孫怡・神崎真実・肥後克己・土元哲平・岡本尚子・安田裕子・鈴木華子・佐藤達哉
64	安田 裕子	簡易版育児ストレス尺度作成の試み	2022年3月	日本発達心理学会第33回大会	木村駿斗・孫怡・矢藤優子・妹尾麻美・肥後克己・神崎真実・中田友貴・安田裕子・岡本尚子・鈴木華子・佐藤達哉
65	安田 裕子	妊娠から産後移行期間における女性QOLの4時点変化	2022年3月	日本発達心理学会第33回大会	孫怡・矢藤優子・神崎真実・妹尾麻美・肥後克己・中田友貴・安田裕子・岡本尚

		について—潜在曲線モデルを用いて			子・鈴木華子・佐藤達哉
66	安田 裕子	日中韓における育児支援リソースの多様性と利用実態、母子の well-being に関する比較研究—育児期の母親を対象としたインタビュー調査の結果から	2022年 3月	日本発達心理学会第 33 回大会	矢藤優子・孫怡・安田裕子・三品拓人・吉沅洪・陳婷婷・Park Joonha
67	佐藤 達哉	裁判員制度における評議のグッド・プラクティスへのコメント	2021年 5月	2021 年度日本法学会	サトウタツヤ
68	佐藤 達哉	Nursing Teachers' Ability Formation Process in the TEA Method Approach: Three Layers Model of Genesis Focusing on Instructor K' s internal dialogue.	2021年 6月	Nursing Teachers' Ability Formation Process in the TEA Method Approach: Three Layers Model of Genesis Focusing on Instructor K' s internal dialogue.	Tanaka, C., Sato, T., Miyashita, T., & Tsuchimoto, T.
69	佐藤 達哉	An Introduction to Trajectory Equifinality Approach: Theory and Practice.	2021年 6月	11th International Conference on the Dialogical Self	Sato, T., Tsuchimoto T., Miyashita, T., & Tanaka, C..
70	佐藤 達哉	Dialogical Self during school-to-work transition :comparison between Japan and Brazil.	2021年 6月	11th International Conference on the Dialogical Self	Banda, K., Yasuda, Y., Ieshima, A., Tsuchimoto, T., Mattos, E., & Sato, T.
71	佐藤 達哉	文化とともにある看護教員の力量形成過程—分岐点におけるイマジネーション理論を用いて	2021年 8月	日本看護学教育学会第 31 回学術集会	田中千尋・横山直子・サトウタツヤ
72	佐藤 達哉	裁判員裁判の評議における意見変容プロセスの分析	2021年 10月	第 22 回法と心理学学会	杉本菜月・中田友貴・サトウタツヤ
73	佐藤 達哉	未必的殺意の説示と理解の過程—模擬評議の質的分析を通じて—	2021年 10月	第 22 回法と心理学学会	杉本菜月・サトウタツヤ
74	佐藤 達哉	TEA の新展開—想像／構想力、展結、関係構造との関連を中心に—	2022年 1月	対人援助学会第 19 回大会	サトウタツヤ
75	三田村 仰	蓼沼力・三田村仰 (2021). 日本人大学生における「半知り」の相手に対する自己主張—親しさの違いに応じたポライトネス・ストラテジーの変化. 日本心理学会第 85 回大会. 2021年 9月 1 日～9月 8 日. 明星大学. オンライン開催.	2021年 9月	日本心理学会第 85 回大会, オンライン開催	蓼沼力・三田村仰
76	三田村 仰	三田村仰・熊野宏明・伊藤絵美・有光興記. 実行委員会企画: 構造化ディスカッショングループ「18 認知行動療法の新たな潮流」9月 5日(日) 13:00-15:00 三田村仰・熊野宏明・伊藤絵美・有光興記	2021年 9月	日本心理臨床学会第 40 回大会 web 大会	三田村仰・熊野宏明・伊藤絵美・有光興記
77	三田村 仰	加藤優季・三田村仰 (2021). 大学生の就職不安に対するインターネット型注意訓練 (AIT) の効果—ランダム化比較試験による検証. P032	2021年 10月	日本認知・行動療法学会第 47 回大会, オンライン開催	加藤優季・三田村仰
78	三田村 仰	清水千加・三田村仰 (2021). 多角的方面からの脱フュージョン方略による思考の確信度の低減—高対人不安者に対する参加者間多層ベースラインデザインによる介入	2021年 10月	日本認知・行動療法学会第 47 回大会, オンライン開催	清水千加・三田村仰
79	三田村 仰	委員会企画 4: 公認心理師養成における認知行動療法トレーニング—コンピテンスに基づいた教育. 企画・司会 公認心理師対応委員会・金井嘉宏, 話題提供: 三田村仰, 柳澤博紀, 小林清香, 指定討論者 原井宏明.	2021年 10月	日本認知・行動療法学会第 47 回大会, オンライン開催	
80	谷 晋二	The Effects of the Online Mindfulness Intervention	2021年 6月	ACBS Virtual World Conference 2021	Li Sheng & Shinji Tani

		on Well Being and the Verbal Self			
81	谷 晋二	The Effect of a Defusion Technique with Negative and Positive Self-Statements: Using FAST to Explore the Defusion Process in Terms of RFT and the DAARRE Model	2021年6月	ACBS Virtual World Conference 2021	Maho Konda & Shinji Tani
82	谷 晋二	The Impact of Acceptance and Commitment Therapy (ACT) Intervention on the Goal Setting and Quality of Life of Home Rehabilitation Patients	2021年6月	ACBS Virtual World Conference 2021	
83	谷 晋二	Verbal instruction may affect STTDE: Improving sensitivity to context affects altruistic behavior IRAP	2021年6月	ACBS Virtual World Conference 2021	Zhang Pin & Shinji Tani
84	谷 晋二	関係フレーム理論 (RFT)入門:基礎研究から最新モデル,そして臨床応用	2021年9月	日本心理学会第85回大会	大月 友・井上 和哉
85	泉 朋子	自動車と自転車の運転者間の快適なコミュニケーション量の検証	2021年5月	第182回ヒューマンインタフェース学会研究会 (コミュニケーション支援および一般 (SIG-CE-23))	
86	泉 朋子	VR 環境における不公平回避行動に関する分析 ~最終通告ゲームを用いた実験的検討~	2021年9月	日本認知科学会第38回	
87	泉 朋子	他者の SNS データに含まれる写真とテキストが思い出想起に与える効果の比較検証	2021年9月	ヒューマンインターフェイスシンポジウム 2021	
88	泉 朋子	日用品エージェントのための擬人性を感じさせる発話デザインに関する検討	2021年9月	ヒューマンインターフェイスシンポジウム 2021	
89	泉 朋子	客層情報を反映するひと型 CG オブジェクトを用いた AR による店舗の賑わい提示手法	2022年3月	インタラクション 2022	
90	泉 朋子	平面と空間を対象とした操作におけるマルチタスク差異の検証	2022年3月	第84回情報処理学会全国大会	
91	泉 朋子	友人情報が写真の印象や観光スポットの選択に与える影響の検証	2022年3月	第84回情報処理学会全国大会	
92	泉 朋子	他者に迷惑をかけてしまう罪悪感を利用した禁煙支援システム	2022年3月	第83回情報処理学会全国大会	
93	泉 朋子	興味関心を促すための歩いてくる観光スポット情報の提示システム	2022年3月	第116回グループウェアとネットワークサービス研究会	
94	泉 朋子	フォントによる表現の強調が思い出の想起に与える影響の調査	2022年3月	感性工学会春季大会	
95	泉 朋子	自動車運転者の不安を緩和する頼りがいのあるエージェントとか弱いエージェントの口調の比較	2022年3月	感性工学会春季大会	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	インクルーシブ社会・医療サービス研究会	オンライン	2022年3月	10名程度	なし
2	アジア犯罪学会報告	オンライン	2021年6月	30名	なし
3	社会病理学会企画	オンライン	2022年1月	90名	なし
4	発達心理学会シンポジウム「研究倫理をどう考える:原理,行動,執筆・投稿に向けて」	オンライン	2021年3月	50名	発達心理学会 等
5	第13回対人援助学会シンポジウム「対人援助学における環境と個人の相互作用」	オンライン	2022年1月	約40名	対人援助学会第13回大会

6	International Symposium by Cross-culture Psychologists from Asia Cross-cultural Adaptation for Asian People: Challenges and Self-Growth	オンライン	2022年3月	38名	アジア・日本研究所
---	--	-------	---------	-----	-----------

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）					
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間	
1	大谷 いづみ	随筆随想（1）死生と関わる主題 通奏低音のように響く	『中外日報』4面	2021年10月	
2	大谷 いづみ	随筆随想（2）なぜ？という問い 番組が与える影響懸念	『中外日報』4面	2021年10月	
3	大谷 いづみ	随筆随想（3）「わきまえ」の分水嶺 端的に表れる社会のひずみ	『中外日報』4面	2021年10月	
4	大谷 いづみ	随筆随想（4）「謝罪文に思う 加害—被害間に越えがたい溝	『中外日報』4面	2021年10月	
5	大谷 いづみ	「安楽死」論の拡大懸念（生きたい社会に ALS 囑託殺人／5）	『毎日新聞』京都版	2021年12月	
6	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本学術振興会特別研究員 申請内容ファイル作成のポイント（講習会）	立命館大学（オンライン開催）、2022年度日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2021年4月～2021年4月	
7	安田 裕子	「学振申請書作成講座」日本学術振興会特別研究員 申請内容ファイル作成のポイント（講習会）	立命館大学（オンライン開催）、2022年度日本学術振興会特別研究員申請ガイダンス	2021年4月～2021年4月	
8	安田 裕子	ライフとキャリアと生涯発達心理学—私の歩み、あなたの歩み	大阪府立四條畷高等学校、大阪府立四條畷高等学校 飯盛セミナー	2021年10月～2021年10月	
9	安田 裕子	日本生殖心理学会資格継続研修会、TEA による不妊女性のライフストーリー研究と臨床への示唆	オンデマンド	2022年3月～2022年3月	
10	佐藤 達哉	TEA（複雑経路等至性アプローチ）は家族心理学に貢献できるか？	第38回日本家族心理学会	2021年11月	
11	三田村 仰	「文章が書けない人のはなし」（三田村仰）J-ABA ニュースレター、2021年春号、No.102		2021年	
12	三田村 仰	【講師】奥越サイコセラピー研究会 第2回研修会「心理支援のためのケースフォーミュレーション」	オンライン	2021年7月11日（日）	
13	三田村 仰	【講師】統合的心理療法セミナー第3回：ケースフォーミュレーション（三田村仰「ありふれた、でも妥当な見立てを目指して」）．主催：公益社団法人 関西カウンセリングセンター(KSCC).		2021年8月29日	
14	三田村 仰	【講師】日本認知・行動療法学会第47回大会 ワークショップ1：「はじめてまなぶ行動療法：機能的な視点を身につけよう」	オンライン	2021年10月10日～11月7日.	
15	星野祐司	移動するドットの個数推定に非同期終了と保持時間が及ぼす影響	日本心理学会第85回大会	2021年9月	

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	林 勇吾	公益財団法人電気通信普及財団	電気通信普及財団賞(テレコム学際研究賞)		2022年3月

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	稲葉 光行	看護研究における混合研究法教育用ガイドブックの開発とeラーニングの構築	基盤研究(B)	2020年4月	2025年3月	研究分担者
2	稲葉 光行	仮想空間を媒介とした日本文化に関する状況学習支援環境に関する総合的研究	基盤研究(B)	2020年4月	2025年3月	研究代表者
3	松田 亮三	多様化する社会における福祉体制の動態—日韓台比較研究を通じた理論開発	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	研究代表者
4	中村 正	脱刑事罰処理を支える「治療学」の確立に向けた学際的総合的研究	基盤研究(A)	2019年4月	2024年3月	研究分担者



5	中村 正	男性性と暴力の臨床社会学的研究	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	研究代表者
6	石田 賀奈子	里親不調による委託解除を予防する里親子支援モデル構築	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	研究分担者
7	若林 宏輔	取調べ録音・録画を用いた任意性判断に対して画像構成が与える影響について	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	研究代表者
8	矢藤 優子	親子の社会的関係性に関する胎児期からの縦断研究:子育て支援政策への提言をめざして	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	研究代表者
9	矢藤 優子	女性の産後育児支援の多様性及び母子のwell-beingへの影響の日中韓比較研究	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化)(B)	2020年10月	2025年3月	研究代表者
10	三田村 仰	就学前の子をもつ夫婦を対象にしたアサーション・トレーニングのプログラム開発	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	研究代表者
11	岡本 直子	能動的ギター療法の導入—技法考案と効果の検証を踏まえて—	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	研究代表者
12	谷 晋二	言語的ルールが人の行動に及ぼす発達の、実験的研究	基盤研究(C)	2021年4月	2024年3月	研究代表者
13	林 勇吾	協同学習における主体的な学びの育成のための知的学習支援システムに関する総合的検討	基盤研究(B)	2020年4月	2024年3月	研究分担者
14	林 勇吾	小集団におけるインタラクション要因の解明:実験システムの開発と認知科学的検討	挑戦的研究(萌芽)	2020年7月	2023年3月	研究代表者
15	竹内 謙彰	認知的側面と自己意識の諸側面とを関連づけた学童期の発達アセスメント	基盤研究(C)	2019年4月	2022年3月	研究代表者
16	美馬 達哉	記憶・想起の脳機能ネットワークの解明と認知症早期治療システムの構築	基盤研究(B)	2018年4月	2022年3月	研究分担者
17	美馬 達哉	静磁場暴露による低周波脳律動の誘導と関連領域との相互結合性の変化	基盤研究(B)	2019年4月	2023年3月	研究代表者
18	美馬 達哉	新規非侵襲的脳刺激が拓くネオ・リハビリテーションとそのシステム脳科学的解明	基盤研究(A)	2019年4月	2023年3月	研究分担者
19	美馬 達哉	脳卒中者の機能再建を可能とするアンサンブル脳刺激法の創成	挑戦的研究(萌芽)	2021年7月	2023年3月	研究代表者
20	斎藤 真緒	家族責任規範の構築・脱構築—多様化するケアラー支援のためのメタ分析	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	研究代表者
21	木村 朝子	仮想物体への接触感を提示する先端伸縮型デバイスの研究	基盤研究(B)	2020年4月	2023年3月	研究代表者
22	泉 朋子	当事者意識を喚起する災害および避難に関する情報提示デザイン	基盤研究(C)	2020年4月	2023年3月	研究代表者

#### 8. 競争的資金等(科研費を除く)

No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	若林 宏輔	ビデオリンク方式の証人尋問が判断者の記憶や判断に与える影響に関する心理学的実験研究		2021年9月	2022年8月	研究分担者
2	中村 正	フォスタリング・ソーシャルワーク専門職講座の開講	日本財団助成金	2021年4月	2022年3月	研究代表者
3	岡本 尚子	自然体験活動における学校教員の危機管理能力向上を目指した視線特徴分析:初心者と経験者の着眼点比較	カンオ科学振興財団 第38回(令和2年度)研究助成	2020年12月		研究代表者
4	佐藤 達哉	人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践		2021年6月	2026年3月	研究代表者

#### 9. 知的財産権

No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	立命太郎	特許(国内)	本人単独	筆頭発明者	****	****	****	日本